

夜

竹久夢二

青空文庫

日が暮れて子供達たちが寢床へゆく時間になったのに、幹子みきこは寝るのがいやだと言つて、お母様を困らせました。

「さあ、みつちゃんお寝やすみなさいな。雛鳥ひなどりももうみんな寝んねしましたよ」

お母様は、幹子に寢間着を着せながら仰おっしや言いました。

「みつちゃんが夕御飯たべてる時に、親鳥が コ コ コ 言つて雛鳥を寝かしてましたよ」

「だってあたし眠くないんですもの」

「山の小鳩こほとも、もう親鳩おやほとの羽根の下へ頭をかくして コロ コ

ロ コロ お休みつて眠りましたよ」

「だってあたし眠くないの」

「赤い小牛は小屋の中で、羊の子は青い草の中で寝ねましたよ」

幹子は、柔かい気持の好いい寢床へ這入はいったけれど、まだ眠ろうとはしませんでした。蒲団ふとんの中へもぐりこんで身体からだをゆすりながらいやいやをしながらむずかりました。

この時、寢室の窓からお月様が、にっこり覗のぞきこみました。

「そら御覧！」

お母様はお月様の方を指しながら仰言うった。

「お月様がみっちゃんに「おやすみ」を言いいにいらしたよ。まあお月様がにこにこ笑わっていらつしやる」

お月様は、幹子の眼めのうちうちに輝きらいた。それは恰ちやうど度ど、「好よい児こ

のみつちちゃんおやすみ」と言っているように見えました。

幹子は、寢床の中からお月様の方を見あげて「お月様おやすみなさい」

そう言つて枕まくらに頭をつけて、お月様を見ながら、お母様の子こもり守唄うたをききました。

お月様の美しさ

天使のような美しさ

「母様！ お月様は小羊も寝かしてやるの？」眠ねむそうな顔をした幹子がたずねました。

「ええお月様は小羊でも山の兎うさぎでも寝ねかしておやんなさるよ」

幹子みきこの目蓋まぶたは、もう開けられないほど重くなって来ました。け

れどお月様は、やっぱり窓からお母様や幹子の寢床を照てらしました。

東の森を出る時に、

お月様は何を見た？

青い牧場の小羊が、

親の羊の懐へ

そろりと這はい入って寝るとこと

好よい児この坊やが母様と

寝ねんねするのを見ています。

お月様は、にこにこしながら、子守唄こもりうたを歌うお母様と幹子と

を見ていました。お母様もお月様のほうを見て笑っていらしたけれど幹子は何も見なかった。幹子はもうすやすやと眠ってしまっ

たから。

青空文庫情報

底本：「童話集 春」小学館文庫、小学館

2004（平成16）年8月1日初版第1刷発行

底本の親本：「童話 春」研究社

1926（大正15）年12月

入力：noir

校正：noriko saito

2006年7月2日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

夜

竹久夢二

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>